

令和元年度第1回徳島市立図書館協議会 会議録要旨

- 1 日時 令和元年9月25日(水) 14:00～15:00
- 2 場所 アミコビル 2階 アミコ・ミーティングルーム
- 3 出席者 委員 委員長 三木 鈴江(家庭文庫代表)
副委員長 櫛谷 友己(四国大学 日本文学科准教授)
委員 大石 恵子(八万幼稚園園長)
稲井 智義(論田小学校校長)
杉本 恭介(徳島中学校校長)
後藤 浩代(市立高等学校校長)
本田 守(市文化協会会長)
細井 啓造(市社会教育委員長)
竹内 紘子(日本児童文学者協会徳島支部支部長)
板東 恵子(市婦人連絡協議会会長)
福島 吉美(市少年を守る母の会会長)
依岡 隆児(徳島大学附属図書館館長)
野々瀬 由佳(県立図書館館長)
- 事務局 市教委(社会教育課) 吉成課長、山川課長補佐、山口係長、堤主査
図書館(指定管理者) 國金館長、廣澤副館長、勝浦副館長、佐野副館長、
川井責任者、菊本責任者、本社営業渡辺

4 議題

(1) 管理運営体制について

館長より説明

《質疑応答》

特になし

(2) 平成30年度の事業報告について

館長より説明

《質疑応答①》

委員 貸出冊数の統計に児童や一般という区分けはあるか。児童の貸出数は少ないと言われるが、徳島市の状況はどうか。

事務局 貸出統計から、昨年度の貸出者数は約28万人であり、一番多い年齢層は40代で、6万人弱である。順に50代、60代、30代となる。6歳までの児童の貸出者数は約1万6千人で、全体の1割未満である。しかしながら、徳島市の人口比率から12歳以下の人口は1割程度であり、この割合から貸出数をみると、一人あたり年間10回以上の来館となり、一人あたりの来館

数は比較的多い。40代、50代はさらに多く、一人あたり年間15回以上の来館となる。貸出者数の男女比率では、女性が多く、6割5分ほどである。

(3) 平成31年度(令和元年)の事業活動について

館長より説明

《質疑応答①》

委員 初めて来館し、すぐマイナンバーカードの登録はできるのか。

事務局 マイナンバーカードを図書館利用者カードとして利用する場合は、マイキーIDが必要となる。マイキーIDの設定は、市役所か県庁で行う。そのIDをもとに図書館の情報と連携させるため、先にマイキーIDの設定が必要になる。

委員 従来通り、図書館に来て登録した方が簡単ではないか。

事務局 利点としてはマイナンバーカード1枚あれば、徳島市立と徳島県立両方の図書館で利用可能となる。

委員 どこか1か所で登録すれば複数館利用可能になるのか。

事務局 登録は各館で必要である。1か所だけの利用であれば、従来の図書館利用者カードの方が便利かもしれない。

《質疑応答②》

委員 令和2年度から新学習指導要領が実施となり、教科書が一新される。4年生の社会科では「阿波おどり」「人形浄瑠璃」「農村舞台」が、全国の4割弱の子どもたちが使う教科書に掲載され、今後10年間使われることになる。3年生の子どもは、社会科で徳島市のことを学習するようになり、4年生の子どもは伝統文化を学習することになるため、今後、図書館には学校教育に関する市や県の教員から資料についての問い合わせが増える可能性がある。4年生の教科書だけ令和3年度から開始で1年間の余裕があるので、教育研究所にある新しい教科書を参考にし、学校教育と連携を取りながら対応してほしい。

事務局 当館では、教科書改訂の際、教育研究所の依頼により新教科書の展示を館内にて行っている。また、5階こども室では、徳島市の小・中学校が現在使用している教科書を集め、教科書コーナーを設置している。「阿波おどり」については、ある程度の蔵書がある。今後は、団体貸出として学校からの要望が出てくると思われる。

委員 先生方が教材研究として図書館に借りに来るという場合もあるのではないか。

事務局 できるかぎり市立図書館としても資料を揃えていくが、県立図書館の方にも問い合わせが増えると思われる。県立図書館とも連携を取りながら対応していきたい。「阿波おどり」や「人形浄瑠璃」などの資料は、一般向け資料が多く、子ども向けの資料や教材用資料は少ない。図書館としても今後調べながら収集していく。しかし、郷土や徳島市に関する資料は流通に乗らないことがあり、関係機関からの情報があれば、そこから資料収集を行うことができる。今後もお力を貸していただきたい。

(4) その他

委員 貸出延長するため、高齢者の方が本を持って来館されたときに、電話でも貸出延長ができる旨のお声掛けしてもらいたい。知らない方もいると思う。

事務局 承知した。